

青少年問題の文献の動向

青少年問題に関する文献は、広範囲で多岐にわたっており、その中から青少年問題についての基本的かつ重要な情報資料を選択し、分析することは容易なことではない。平成2年度においては、膨大な情報資料を収集分析した後、約800件の資料について本文献集に収録した。

A 社 会

青少年対策(A10)に関しては、所収した文献から、各自治体で青少年関連行政の計画化・体系化が取り組まれ、その上でバラエティーに富んだ施策が展開されていることを読み取ることができる。

秋田県では、「第5次秋田県青少年育成総合基本計画」が平成2年度までの計画で策定されており、青少年の発達段階の各時期に応じて、その発達課題や生活環境の課題が提起されている。栃木県では、「いきいき栃木っ子3あい運動」(学びあい、喜びあい、はげましあおう)が推進されている。その基本的な考え方は、従来行われている地道で貴重な教育活動を掘り起こして光をあてる、多様化し細分化する諸活動について「3あい」の観点から集約化・焦点化を図る、諸活動・諸施策について相互に絡み合わせ関連づけることによって相乗的な効果と効率化を図る、の3点である。千葉県では、平成3年度から「さわやかハートちば」という県民運動の中で、青少年の健全育成が県政の重要施策として位置づけられている。神奈川県では、昭和61年にかながわ国際青年の年推進協議会から発表された「かながわ青年行動計画」の改訂が行われた。ここでは、社会情勢の変化にあわせた内容の見直し、より多くの青年が共感し、ともに行動できる内容、単なる課題の提示に終わらない目標を定めた実施計画が目指されている。愛知県では、「愛知県青少年健全育成計画」が平成元年2月に西暦2000年を目標として策定されている。三重県では、本年度の青少年対

策を、前年度の基本目標「時代の変化に主体的に対応できる青少年の育成」を踏襲して、本年度策定の第3次三重県長期総合計画、本年度より移行実施の文部省「新学習指導要領」や総務庁「青少年対策推進要綱」等を考慮して策定した。大阪府では、P(PLAY, PARTICIPATION, PLACE), L(LEARNING, LEADER), A(ASSOCIATION, ACTIVITY), N(NATURE, NET-WORK), E(EMOTION, EFFORT, ENCOURAGEMENT), T(TRAINING, TOLERANCE, TOUGHMIND)のPLANET(遊星)計画を進めている。これは、青少年が遊星のように社会という宇宙のなかを自由に飛び回ることを願ったものである。宮崎県では、第4次総合長期計画を策定しているが、その基本政策の一つに「21世紀を築く人づくり」を掲げて健全育成に取り組んでいる。鹿児島県では、昭和55年度から「青少年自立自興運動」を推進してきたが、平成2年度から新たに「未来へはばたけ青少年運動」を展開している。これは、次代を担う青少年に、たくましい自立の精神を加え、幅広い国際的感覚と未知に挑戦する気概をもってほしいという意図で始めたもので、その特色としては、青少年活動を青少年自身が企画・実践する青少年主体のものとし、活動内容も国際的感覚の醸成など時代に即応したものを求めていることなどがあげられる。

なお、これらの文献から、各地で青少年の意識や実態に関する調査が行われていることがわかる。それらの調査結果はそれぞれの資料に紹介されているので参考になろう。

国民運動(A11)に関しては、所収した文献の中には行政が発行したものも多くあるが、そこで紹介されている活動内容に関していえば、住民みずからが青少年育成に取り組んでいるものがほとんどである。

神奈川県では、昭和63年1月の「かながわ青少年プラン」を受けて「ふれあい教育運動」が取り組まれており、さらに、県民会議では県民行動計画を作成している。滋賀県では、昭和63年10月の「アクティユースプランー滋賀県青少年育成長期構想」を受けて、「ひとの時代、活力創生の郷土づくり」をテーマとした湖国21世紀ビジョンの実現を目指した各方面での取り組みがなされている。また、兵庫県では、「こころ豊かな人づくり」県民運動を支援するため、自治会や子ども会などの既存組織との連携のもとに「ひょうごっ子きょうだい

づくり事業」を行っている。

このように、県民・市町村民運動としての国民運動が自治体の青少年行政とタイアップして行われていることは、実際にも地域における運動の実効生を高める結果につながっているといえる。さらに、今後は、自治体が青少年育成国民運動の発展に対して行政独自の役割を今まで以上に発揮しながらも、国民運動自体がいっそう住民の手によって自主的・自発的に活発に進められるような行政の関わり方を、実践面からも研究面からも明らかにすることが重要な課題となるだろう。

(担当 西村美東土)